

Weekly Report



名古屋アイリスロータリークラブ

例会日	水曜日 13:00～14:00	会長	藤谷 猛
例会場	ANA クラウンプラザ グランコートホテル名古屋	幹事	深見 礼子
承認	2013年6月18日	公共イメージ 向上	岩崎 幸弘



ロータリー：
変化をもたらす

2017～2018年度名古屋アイリスRCのテーマ

共に活動し、共に奉仕し、
共に頑張るアイリス

●お問い合わせ：office@nagoya-iris-rc.jp

●公式WEBサイト：http://www.nagoya-iris-rc.jp

第235回 例会

2018年6月27日 13:00～

- 司 会 生田瀬津子 例会運営・司会委員長
- 斉 唱 手にてつないで
- 出席報告 出席者数 25 名 / 43 名
出席率 58.13 %
前々回修正出席率 83.72 %
- ビジター 栄 RC 西田充宏様

ニコボックス

- 本日は、いよいよ今年最後の例会となりました。一年間、支えて下さいました皆様に心から感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。(藤谷猛会長)
- 藤谷会長、深見幹事 1年間お疲れ様でした。後はまかせてと言いたいところですがしばらく4人5脚でよろしくお願ひ致します。(竹内祐子会長エレクト)
- 藤谷会長、深見幹事 1年間お疲れ様でした。次期 皆様のご尽力を宜しくお願ひ致します。(片桐栄子次期幹事)
- 藤谷会長、深見幹事 1年間誠ににお疲れ様でした。6年目のアイリスへ宜しく引き継ぎをお願いします。後藤さん、加藤晴美さん ありがとう(安井戦略委員長)
- 藤谷会長、深見幹事 1年間お疲れ様でした。次年度もアドバイザーとして引き続き宜しくお願いします。(荒山久美さん)
- 藤谷会長、深見礼子幹事 1年間お疲れ様でした。後藤社長大変お世話になりました。有難うございました。(梅澤真臣さん)
- 2017-2018年度の最終例会ですね！藤谷会長そして深見幹事 1年間お疲れ様でした。(後藤卓郎さん)
- 本年度最後の例会です。藤谷会長、深見幹事 1年間お疲れ様でした。(島村恵三さん)
- 藤谷会長、深見幹事 1年間ありがとうございました。これからもひきつづきよろしくお願ひ致します。(生田瀬津子さん)
- 藤谷会長、深見幹事 1年間お世話になりました。右も左もわからないところをご指導して頂き感謝しております。これからもよろしくお願ひいたします。(澤田直美さん)

- 短い間でしたが、皆さんには大変お世話になりました。ありがとうございました。(加藤晴美さん)
- 藤谷会長、深見幹事1年間大変な御苦勞をされ尊敬します。お二人を觀させて頂き、入会させて頂きました。今後共よろしくお願ひします。(林功さん)

会長挨拶

みなさん、こんにちは。
いよいよ今年度の最後の例会の日となりました。この一年間、本当にお世話になりました。心よりお礼を申し上げたいと思います。

今日の日を迎えるまでに、多くの方々のご指導を頂きました。今は亡き北 RC の浦野特別代表をはじめ田島名誉会員、水野名誉会員、栄 RC の八神アイリス初代会長、そしてクラブ内では安井元会長、荒山元会長、櫻井直前会長、本当にありがとうございました。特に浦野特別代表には、いつも隣に座って頂き、色々なお話をお聞かせ頂きました事は、良い思い出であり、私の宝となりました。そして会員の皆様には、各委員会の運営をはじめご協力を頂きました事に改めて心よりお礼を申し上げます。ありがとうございました。

会場監督の後藤委員長には、いつも素晴らしい会場のセッティングをして頂きました。来訪者の方々には、本当に素晴らしい例会場とおいしい料理でアイリスは素晴らしいですねとお褒めの言葉を頂く事が多々ございました。

生田さん、島村さんをはじめ例会運営・司会委員会の方々には、どんなアクシデントにも臨機応変に対応できる素晴らしい司会をして頂きました。何度も助けて頂きました事を思い出します。外部からの来訪者も受け入れる受付・ニコボックス委員会はアイリスの顔であります。加藤委員長には運営の取りまとめと新入会員の指導をお願いし、大変なご苦勞をお掛け致しました。

出席管理では、途中から鬼頭委員長に代わり梅澤副委員長に各種案内やガバナー事務所への出席報告をお願いすることになりましたが、しっかりとした管理を行って頂きました。

親睦活動委員会では深見委員長を中心に、3回



の親睦例会とクリスマス例会を運営して頂きました。特にクリスマス例会は、誰もが楽しめる素晴らしい会となりました。お子様も大変喜んでおられた姿が印象に残っております。

公共イメージ向上委員会には、時間の掛かるWeeklyReportの作成を行って頂きましたが、どうしても工数が掛かり、スキルのある方に負担が掛かってしまいました。本当に申し訳ありませんでした。次年度では、作成方法と作業分担の再考をしましょう。

職業奉仕委員会では沖委員長、長谷川副委員長、委員会委員に加え有志の方々にお手伝い頂き、継続事業である小児がんの子供たちへの支援として名古屋小児がん基金の事務局開設準備の什器と設置作業の支援を行う事が出来ました。次年度も継続して支援を進めて行くことになっており立派なアイリスの柱となりつつあります。

青少年奉仕委員会では、アイリス始めて以来のローターアクトの主管を仰せつかり、右も左も分からない中、加藤委員長と安井副委員長を中心に委員の方々のご努力で見事にやり遂げる事ができました。何度も委員会を開き、打ち合わせを行い、膨大な資料を作成するなど、今後の責任ある委員会の方向性を見出して頂き、そのノウハウはアイリスの財産となりました。

財団・米山奨学会には張さんのカウンセラーをお願い致しました。現在は、続いてサイさんのカウンセラーをお願いしております。また地区補助金の申請にもご苦労頂きました。

会員増強委員会では今年度6名の増員を実現いたしました。次年度からも更なる増員を目指して頑張ります。

そして、今年度、神野ガバナリーの命を受け初めてのクラブ戦略委員会が設置されました。安井委員長には色々な面でご指導を頂きました事を感謝しております。次年度は、いよいよ本格的な戦略委員会の活動が期待されます。

理事、役員、各委員会の皆様には、この一年間お忙しい中、ご協力を頂いた事に心より感謝致しております。ありがとうございました。

また、深見幹事には、毎日やってくる膨大な数のメールや書類の整理など本当に頑張って頂きました。私事ではありますが、私も深見幹事も今年度は自分の仕事で大きな山場を迎え、本当に時間のない中での作業でした。仕事が進められずイライラする日もありました。深夜4時ごろに電話とメールでやり取りをしながら作業を進めてきた事も今となっては良い思い出です。こんないい加減な私をよく支えて下さったと改めて感謝をする次第です。深見幹事には災難であったかもしれませんが、深見幹事という良きパートナーを得た事で一年を乗り切れたことは間違いありません。一年間、本当にありがとうございました。心より感謝致します。

さて一年前、今年度の第一回の例会を迎えたときは、これからどうすれば良いのか何から手を付けて行けばよいのか、さっぱり分からず自問自答するばかりでありました。そんな中、私が第一番に考えたこ

とはロータリーを理解せずして会長の大役は果たせないという事でした。もう一度、原点に戻りロータリーのはじまりや進化、そして、その間のもめ事など多くの資料を読み漁りました。そうしている間にロータリーが設立されたころの事情や苦労、その後の葛藤など紆余曲折に触れる事になりました。その後、進化し社会と共存してゆくロータリーの姿に、その意義と素晴らしさを感じた私は、今年度は少しでもロータリーの意義を皆さんと共有したいと考えるようになりました。

そうした中で、人、命、奉仕、社会とのかかわりなどをテーマに会長挨拶を作り、お話をさせて頂いたのですが、当初は少し重いとのご批判を受けたことも承知しております。毎回、固い話ばかりで本当に皆さんには申し訳なく思いました。最後にもう一度だけ固い話をさせて頂きませんが、どうかお許しください。このお話は、第5回目の会長挨拶でさせて頂いた話ですのでご記憶の方もありません。私が会長としてどうしても伝えておきたい話であります。

どのクラブも同じことであると思いますが、人それぞれ、会社の規模もそれぞれ、考え方もそれぞれであります。この違った考え方や価値観を統合し、同じ方向に間違いなく向け、事を成し遂げるには大変なエネルギーが必要となります。しかしロータリーには、その力があります。

それは、4つのテストがあるからです。人が変われども、時代が変われども、不変の規範、それが4つのテストです。自分の考えや行動を4つのテストに掛けてみれば、あっという間に答えが得られます。私が会長を務めさせて頂いた1年間で得た一番大きなものは、この4つのテストの意義でした。言葉でしか理解していなかった4つのテストを少しだけ心で理解できるようになった気がしています。

もういちど4つのテストを確認してみましょう。

1. 真実かどうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるか

驚く事に、この「4つのテスト」は、なんとロータリーで考えられたものではなかったのです。では、それがどうやってロータリーでの「4つのテスト」になったか、その由来をお話したいと思います。

1930年代、アメリカを襲った世界恐慌の中で、倒産寸前の従業員250名位のクラブ・アルミニウム製造という会社がありました。その会社の再建を委ねられたのがハーバート・テラーという人でした。

どうしたら、この会社を立て直すことができるか、テラーの苦しい日々が続きました。そして1932年7月のある日、神に祈り、4つのテストを思いついたのです。テラーは、この4つのテストに基づいて、会社のありかたを再検討してみました。すると如何に4つのテストの精神が、今までの会社のやり方と矛盾しているかに気づきました。例えば「真実かどうか」という点について、広告一つとってみても、4つのテストの精神からかけ離れていたのです。

約2ヶ月の間、4つのテストについて深く考え、やれるという自信を得たテラーは、社長として4つの

部門の責任者をよんで、4つのテストについて説明し、意見を求めました。彼らは各々違う宗教を持っていたのですが、4人共4つのテスト、つまり真実(正しいこと)、公正、善意と友情、皆のために、などの精神は、彼らの信仰に合致するし、さらに会社のモラルを高め、ビジネスの成功、発展にもつながると考え賛成しました。

やがて会社の全従業員は、4つのテストを暗記し、それをもとに行動するよう誓約を求められたのです。そしてテラーは、全商品の誇大広告を禁止すると共に、製品の特徴や長所・短所も正直に述べる事にしました。その結果、一般の人々の信用を、より得る事ができたのです。また、競争相手の製品に対する中傷、攻撃は控えられ、相手方の信頼と友情をより得ることもできました。

こうして当初、銀行から6千ドルを借りて再建に着手した会社は、5年後には全額を返済し、10年後には押しも押されぬ一流企業に成長し、15年後には100万ドルの配当金を株主に支払う超一流の会社となったのです。

この「四つのテスト」はキリスト教勤労者財団を通して世界中に認められるようになりましたが、1942年「四つのテスト」を使う権利を国際ロータリーに与え、1954年テラーが国際ロータリーの会長になった時に、その著作権をロータリーに譲ったことで、使用権はキリスト教勤労者財団とクラブ・アルミニウム製品会社、そしてテラーにも保持されました。テラーは、『この「四つのテスト」は、大恐慌の日々の中、わたしの事務所で、出来上がったものである。それは250余名の人々の職を確保し、破産した会社を救うにはどうしたらよいかと神に祈った結果生まれたものである』と書いておられます。しかし、「四つのテスト」はあらゆる時代の、あらゆる人々のためのものであり、今こそこれを必要とするときではないでしょうか。

神への祈りとその結果に裏打ちされた「4つのテスト」を教えてくれたロータリーと、この一年間ご協力を頂きました皆様、この一年間業務を通し良き友となつて頂きました方々に心から感謝し、今年度最後の会長挨拶とさせていただきます。

本当にありがとうございました。

幹事報告

グルメ同好会について再度ご案内します
本日開催ですので、まだまだ参加OKです。



後藤会場監督に花束贈呈

本日最後の後藤様に花束を贈呈いたしました。



ありがとうございました。

グランコート川田様へ

川田様、スタッフの皆様、大変お世話になりました。



会長・幹事へ花束贈呈

1年間、大変お行かれさまでした





次年度の会長・幹事と共に



1年間、本当にありがとうございました。



Earth, Wind & Fire - September でのりのりで入場の藤谷会長・深見幹事
最後は思いっきり楽しく…… でも……まじめ



無事、2017～2018 年度を終える事ができました。

2017～2018 年度 皆様のご協力に心より感謝申し上げます。
ありがとうございました。

